

アメリカを みせる

市民響 × 田部井剛

府中市民交響楽団

Tsuyoshi Tabei · 指揮 & ピアノ

バーンスタイン
「キャンディード」序曲

L. Bernstein : Overture to "Candide"

コープランド
エル・サロン・メヒコ

A. Copland : El Salon Mexico

ガーシュイン
ラプソディ・イン・ブルー

G. Gershwin : Rhapsody In Blue

グローフェ
「グランドキャニオン」組曲

F. Grofe : "Grand Canyon" Suite

2012年

6月10日(日)

13:30 開場 / 14:00 開演

府中の森芸術劇場 どりーむホール

全席自由 前売1,000円 / 当日1,200円 *チケット発売: 2012年2月26日(日)

*小学校入学前のお子様のご入場はご遠慮下さい

お問い合わせ: ハーモニージャパン 03-3409-3345 / 大橋康廣 042-368-6180 / info@fuchu-cso.org

チケット取扱: チケットぴあ 0570-02-9999

主催: 府中市民交響楽団 <http://www.fuchu-cso.org/> 後援: 府中市





アメリカの音楽、弾き振り、そして、府中のこと…

指揮 & ピアノ ● 田部井 剛

府中市民交響楽団（以下、市民響）との共演は2008年秋から始まって、これで4回目となりますが、初めての練習の時から何か「波長が合う」感じがしました。府中の街も好きです。都心から離れているのに商業施設はしっかりしているし、歴史があり、緑も多くて、芸術劇場や美術館など文化施設が充実し、そして、オーケストラがある。こういう環境で育ってきたオーケストラは僕にとってはなんだか落ち着くんですね。

今回のアメリカ音楽のプログラムは、すごく魅力的な組み合わせで、僕向きだし、市民響にも合っていると思います。華やかな「キャンティード」序曲で始まって、「エル・サロン・メヒコ」はちょっと練習が大変かな、市民響が苦手なリズム系。「ラプソディ・イン・ブルー」の弾き振り（ピアノ独奏をしながら指揮を振るスタイル）は、僕にとっては2回目の経験、府中ではもちろん初めてです。普通、弾き振りはモーツァルトのピアノ協奏曲とかを40人くらいの小編成のオーケストラでやるもので、今回みたいに大人数のフルオーケストラでは珍しい。ピアノ演奏だけでも難曲ですが、ソリストとしてオーケストラの演奏にずっと集中しなければならないし、その上で指揮者としてもこの大人数を最後まで引っ張らなければならない。これはもう無謀とも言えるのですが…今回、市民響と一緒にどこまでやれるのか、本当の相性が試されるかも…。

「グランドキャニオン」組曲は全曲が演奏されることはめったにないので、これもまた珍しい選曲です。音楽の授業で聴いたメロディーは、どなたもきつとなつかしく思われるのではないのでしょうか。

どちらかという大人しい印象の市民響ですが、今回はとにかく若々しくなってもらって、アメリカの「ノリ」を表現したい。僕も本番は存分にはっちゃけますので、市民響とお互いのイイ波長を引き出しつつ、アメリカを「魅せる」舞台、とことん楽しみたいと思います。

たべいつよし Tsuyoshi Tabei

早稲田大学商学部卒業。東京音楽大学指揮科研究生修了、東京芸術大学指揮科卒業。

これまでに指揮法を遠藤雅古、神宮章、武藤英明、佐藤功太郎、ジェームズ・ロックハート、広上淳一、三石精一の各氏に、ピアノを岩津章子、秦はるひ、藤田雅の諸氏に師事。

沖縄国際音楽祭出演。東京芸大在学中にはレハールのオペレッタ「メリーウイドウ」を全曲指揮。

1999年には日本フィルハーモニー交響楽団にて巨匠エリック・ハイドシェック氏とマルセル・テラノフ作曲「5月の協奏曲」を協演・指揮（日本初演）。ソリストであるハイドシェック氏は、田部井の読譜能力の高さ、また叙情的でリズムに溢れた演奏に対し、「ヤング・トスカニーニ」と讃えた。2002年には「モーツァルト名曲コンサート」にて再びハイドシェック氏と共演、新日本フィルハーモニー交響楽団を指揮。青柳いづみこ著「ピアニストがみたピアニスト」〈Pianistes vus par pianiste〉（白水社刊）では、そこでの協奏曲における絶妙な指揮ぶりについて著述されている。最近では室内合奏団「カメラータ・シオン」（Camerata Jion）を結成し、ヴァイオリニスト川島成道、チェリスト青木十良の諸氏と共演するなど積極的な活動をしている。2005年にはハイドシェック夫妻との国内ツアーを成功させ話題を呼んだ。そのライブ録音が仏アンテグラル社（Integral Classics France INT 221.156）よりリリースされている。また、カテリーナシヨット、宗次郎、クミコ、岡本知高、江戸家子猫などジャンルを問わず内外の様々なアーティストと共演し、高い信頼が寄せられている。

オペラの分野においては、團伊玖磨『ちゃんちぎ』、モーツァルト『フィガロの結婚』、『魔笛』など指揮し、高い評価を得た。

このほか群馬交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉、東京佼成ウィンドオーケストラ等を指揮。2006年にはチェコの名門、ターリヒ室内管を指揮し、モーツァルトの交響曲をレコーディング、そのCDがキングインターナショナルよりリリースされている（STUDIO FLORA B-2704）。

2009年より桐蔭学園第九の会指揮者。

2010年には日本フィルハーモニー交響楽団にて文化庁主催公演（計9公演）を指揮した。

また、ピアニストとしても非凡な能力を発揮し、ウィーンフィル首席チェロ奏者フリッツ・ドレシャル（Fritz Dolezal）、上村昇、勝部太、寺谷千枝子、平松英子諸氏と共演している。2009年にはコントラバス奏者、白土文雄のレコーディングにチェンバロ奏者として参加、Harmony社より「モノログ」がリリースされた（HCC 2049）。

2009年、上毛芸術文化賞受賞。